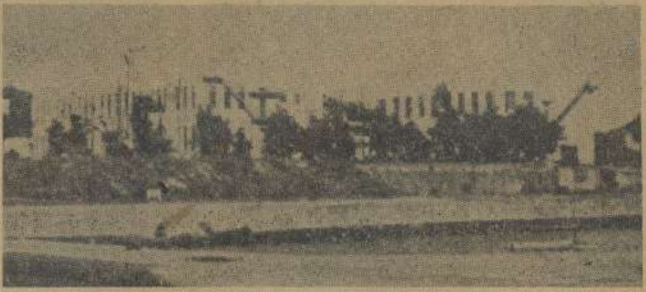
(発行所)
横須賀市船越町
榮光学園新聞部
編集責任者

予定

三月
七日(土)高校卒業式(十時)
十日(火)第三学期授業終了
十一日(水)試験前休み
十二日(木)第三学期末試験開始
十六日(月)同終了
十四日(土)新入生顔合せ会(一時半)
廿三日(月)成績発表 終業式
四月
九日(木)入学式
十日(金)新学年授業開始

一期生晴の卒業迎ふ



忘るな『榮光精神』
卒業生に望むもの

春のおとずれも近い三月七日、私達は、本校初の卒業生を送り出すのであるが、本学園の第一期生として、又我等の先輩として、私達がこれらの卒業生に寄せている期待は、はなはだ大きい。在校生達は、この四十九人の卒業生に、何を最も望み何を最も期待しているのであろうか——。「卒業生に望む」という題で、二人の在校生に、その期待を書いて貰った。

榮光を見たくば己を

今回、本校第一回の卒業の栄誉を受けられる皆様に心からお祝い申上げます。この度の卒業は卒業される皆様ばかりではなく、諸先生、我々在校生、また四月から入学予定の新入生にとって大きな意義を持つものであります。それは「栄光」とは何であるかを、実際に示すべき時がやって来たからです。六年間の学校建設の苦心、常に最上級生としての自覚、下級生に対する模範は、栄光の物質的な発展及び後輩に受け継がれた精神により容易に想像される事実です。学校の精神、雰囲気の如何は主に一期生の皆様の働きによる所が大きく実際一期生の作った雰囲気は学校生活の隅々迄残って居ります。卑近な例として「天狗」「シャモ」(先生方には大変失礼!)などのあだ名、或は喜びを表わす手段として一期生から伝って来た拍手の慣わしなどは消そうとしても消えません。部活動の経験の豊富な人は、一期生の積極的な、時には犠牲的な働きを忘れる事は出来ないでしょう。しかも困難快活な気分はどこまでも失わず、部員一同の励しとなりました。顧みて、想い出の多い一期生を送るに当って、我々後輩はこの精神を保ち後々まで伝える責任を忘れられません。

卒業は、よく云われるように、終ではなく、次の使命の始めとなるものです。我が学園では船の絵ともいうべき第一期生の皆様、いよいよこのなつかしい長浦港を去って広い大海に船出せんとするに当り、各々新しい進路に向って雄々と勇躍なく、我が学園で示された精神を発揮し、「栄光を見たくば己を見よ。」と云う自信と勇気を持って母校の名を挙げて下さい。そして先輩の蒔かれた種を育てる義務をもつ私共に、折々後の指導をお願いします。

最後に皆様の進学に成功あらんこと、我等の校歌にある「平和の使徒」としての御活躍をお祈り致します。

母校に誇を持て

既て立派な卒業生の皆様に改めてお願いする事はないのですが、唯私達にもすぐ解る事は、皆様が栄光の第一期生としての任務、使命は、今まで苦労して切り開き基礎ずけられた栄光生としての努力にもまして非常に大きな事だという事であります。栄光という一つの種子が、次第に成長し、始めてこゝに陽の目を見る事になり、ひょっこり芽を出す事になるのです。地上のものたちはこの芽が如何なるものであるか解らず、驚きと嫌疑とを以ってこの新顔に注目するでありましょう。問題はこれからです。真に堅固な栄光という木を成長させて下さい。この義務は私達にもあります。しかし芽が倒れては終りです。あらゆる災難にも負けない大きな強い木をつくり、これを頼りに、又陰を求めてこの大樹の元へ人々がやって来る様にしたいものです。これらの具体的な表れ、社会に於ても、大学に於ても、は言うまでもない事と思いますが、例えば栄光出身とい

皆様はこの芽の最尖端として、ってもあんと皆知らず、馬鹿にする者もありましょうが、栄光精神を忘れず、努力する事により社会の隅々まで、この精神を完全に発展させましょう。これらはお願いであると同時に、私達も新に決心する事なのです。

最後に、多くの人々は大学を卒業すると、何の大学出身という事のみに心を奪われ高校出身などは微塵も口に出さず、又は意識しなくなるのでありますが、どうかいつまでも栄光出身という事に誇りを持たれて、努力される事を希望致します。

榮光会委員、任期三年に
来學期より換ズボン携行か

第六回栄光会は、一日の一時四十五分から本校講堂に、五五〇名以上の父兄参集のうちに開かれたが、今回は、特に〃本校に於ける英語教育方針〃についての講話があった外、会長から、一部会則変更の通告につづく、フオス校長、シュ訓育主任の講話をもつて三時五十五分散会した。

―〇―

会は、新会長の挨拶に続いて会則の一部変更と、それに対する質疑をもって開会、うち主な改正点は、委員任期の三年移行、一年毎三分の一改選の二点となった。

次に英語問題で東郷先生は、英語教育の目的、指導方針、reader の特徴、参考書にわたって説明されたあと「本校の英語教育方針は、応用力のある生徒を創り出すことである」との主旨をもって結ばれ、続くフオス校長は勉学問題に触れたのち、子供の教育について大要次のように語った。

「人間の自由は人間の最も大切なものであり、最も危険なものでもある。そして人間は、善悪に対して自由に選択することが出来ることから、悪の道に入ることもあろう。規則は、このようなことの未然防止のために必要である。しかしこれをもって自由を許さぬことは封建的ではあるまいかという人や考える人もあるが、子供の将来を考える時、このような規則を守らせることは必要であっても、不要ではない。従って子供をしっかりした立派な人間とすることを望むならば、子供の我をよくおさえ健全な教育に重点を置き、従順たらせることが肝要であろう。」

かくて最後にシュ訓育主任は

一、風邪をひいている時は、無理に登校せず、一日休むがよかろう。
二、来学期より、強制的に換ズボンの携行を行なわせる。
三、中学生が映画を一人で見にゆくことを禁ずる。そして高等学生(特に高二)は行くことをさしひかえるよう。
四、ニュースフラッシュの論説は非常によいことを書いてあるから必ず読まれるよう。
五、学校で、骨折、外傷の際は、極力傷害保険を利用されるよう

等を勧告、三時五分散会した。

【一部解説】

シュ訓育主任は、換ズボンを強制的に携行することを述べられたが、これは、校服制定の際に、校内であばれることによる破そんを防止することを目的としたもので、朝会前に取換えることになるようだが、施行にあたっては問題も起るだろう。

又、映画問題であるが、高二生に特に注意を喚起した理由は最上級生への進級によるためと下級生への模範者に、校風の立場からとみられ、中学生のための規則は、変りない。

▽―△

大学志望校ほゞ決定
案外多い私立志望

かねて関心の高かった高三生の志望する学校が判明した。今回は二月十二日現在のものを採用したため、願書が締切られる迄には多少の変動があるものとみられるが、大体においてこの傾向が最終的なものと言えよう。このうちで、予想に反して少ないのが東大等の官立志望者で、上智大等の私立大学を志望する者が多くなって居る。そのほか、星薬科大、東北大、商船大などが異色をはなっている。さきの保安大学関係では、現在まで七名の志望中、第一次考査、第二次考査をへて「五名が通過し、発表をひかえて、微妙なうごきをみせているが、パスするとしてもどれ程の者が進学を希望するかは非常な疑問である。

今期の本校受験者数は、全部で四十九名、第一、二、三志望校等をあわせて、延一〇二名以上となる。

A:官立の部
I期
東京大学—18(名)
一橋商大—2(〃)
東教育大—1(〃)
横浜国大—10(〃)
東北大学—1(〃)
以上32(名)
II期
東外語大—6(名)
電通大学—4(〃)
商船大学—2(〃)
東学芸大—2(〃)

B:公立の部
横浜市大—4(名)

C:私立の部
慶応大学—14(名)
早稲田大—15(〃)
上智大学—9(〃)
明治大学—1(〃)
星薬科大—1(〃)
以上40(名)

榮光灯

▽高校生と中学生が仲よく生活しているといったら一寸聞こえが良いが、実は我々高校生にとって「少々迷惑なこと」である。第一中学生が馬鹿にしていけない。学校にいわせると経営上、教師を別個にすると都合が悪いのだそうだが、月謝を払って授業を受けている高校生にも少し文句がある。一体中学から高校に入って教師が変わらないということは、気分が変わらないばかりか、教師自身の教授態度に変化がないことから必然的に我々の勉強にも大きな影響がある。

▽一応高校生になったという自覚などと殊勝な考えを起しても、三日も経てば中学気分がぼう弘としてぶり返してくる。即幻滅である。もっともこればかりではあるまいが、高校生には大人がいない。全部中学四年生程度のボッチャンでおられるといったらふさわしいだろう。つまりドングリの背くらべで強く引っぱって行く力のある者がないということだ。

▽他の高等学校へ行くと、成程高校へ来たなという感じがする。中学校を出て高校に入ったという自覚から来る雰囲気がかもし出したたまものなのである。つまりこれだ、どうせ同校内で進学するのだからという考えがいけない。他ならぬ自分の為の勉強だ、高校生は学校の行政、教授法に対してもうすこし容喙してもよい。かくて諸君極力中高分離に対して協力しようではないか。

論説　第一回卒業生を送る

この三月七日、わが栄光学園は最初の卒業生を送り出すことになった。終戦直後の混乱期に創立して営々六ケ年努力を共にした結果ここに第一回の卒業生を送る。送る人も送られる人もおのずから感なきを得ないであろう。

第一期生はいわば本学園の長男である。世の家庭の長男の如く、この長男も親たる学園に甘え、楽しんで来た。日常の学校生活において、また遠足、キャンプ等の諸行事を通じて、相和し談笑し、教師と生徒との間然するところのない融和の世界を作り上げ、やがてこれをよき伝統として下級生に伝えた。しかしながらまた、この長男は、齢若く経験も浅い親のなめる辛苦を分ち、これに耐えながら今日の栄光の基礎を築いた開拓者でもあったのである。栄光の伝統或いは校風というものが、今日あるとすれば、その第一の功績はこの第一期生の上におかれねばなるまい。伝統とか校風とかは一朝にしてなしうるものでもなく、また単なる独善的なモットーをおくことによってなしうるものでもない。それはすべて、長年月の間に実践され、肉づけされ、かつ、普遍的価値に通ぜしめんとする道徳的勇気に維持されて、始めて形成、発揚されるものである。路上でのあいさつ一つをとりあげてみても、六年前、あの終戦当時の索漠たる世相において、よく世人環視のうちにこれを実践し、道行く人々をふり返らせ、一種、清爽の気を感ぜしめたことは、今にして云い、行うは易いが、最初の実践者としての努力は並大抵のものでもなかった筈である。そしてこの一事のみを以て、既に当時栄光の名を世間に喧伝せしめたのであった。後につづく諸君はこのようにして示された道を安心してうけつぐことにより、多大の誇りと名誉をもち得ているのである。同様のことは勉学、部活動、その他もろもろの学校生活行事についていえることである。要するに、第一期生は学校が所期の教育目的を達するために施した方法に対して、そのつどよく試金石としての任務を果し、栄光における教育の基礎を固めたのであった。在校生としてはこの第一期生の功を讃えると共にかくしてようやく出来上りつつある栄光の伝統をさらに充実発展させる勇気を新にすることが、卒業生におくる最上のはなむけであろう。

上にのべた事は、しかし同時に卒業する諸君においても改めて回想してほしいところである。六ケ年間の諸君の生活は、このような開拓者としての光栄に輝くかげに同時にいくたの苦い経験をもったものであることも想像に難くない。学制そのものの改革途上にあってしかも創立未だ日の浅い学園内の生活においては、避けられないことであったにせよ、その点については深い同情をおぼえる。しかしながら、それらの苦汁を超えて、なお諸君の心の中に残るものを、今日この日にしかとみつめられんことを望む。一人の卒業生は云った。本学園の教育において、人間というものの本然の姿を知りえたことを感謝する、と。諸君が学校の内外の生活において、よく発溂と行動し得たことはこの言に闡明としている。

諸君が今後進学し、さらに世に立つ時諸君をとりまくもろもろの環境は恐らく諸君の理想と背馳するところのものが多いであろう。しかしこれをふみ越えてゆく力を、既に諸君はもち得ている。道徳的寛容と勇気、それを支えるものとして謙遜と愛の精神。その体験を既に諸君は、中学一年にして得ているのである。この諸君の生涯の一時期における歴史的真実をいま再び心を空しくして味わいとり、以て前途の力杖とされたい。

同時に、第一期生の卒業と同時に、本学園は新たに同窓会の設立を迎えることを喜びとする。そして今後は、卒業生諸君がこの同窓会を通じて卒業後も本学園と密接な連絡を保ち、本学園の成長に対して大なる声援を寄せられんことを期待してやまない。由来、学園と生徒父兄のつどいである栄光会との密接な連繋は栄光の大きい特色となっているが、いま同窓会の創立によって鼎の三つの肢をそろえ、この盤石の基礎の上に、栄光がいよいよ発展することを望んでやまない。

終りにのぞみ、卒業生諸君の御健康と御奮闘とを心から祈っている。(筆者　先生)

図書室に時計

〃終両人会(高三年)では、この度の卒業の記念として、置時計二個を学校へ寄附して行く事となった。

この時計は、中高両図書室に置かれ、利用者に時を知らせる。

創業三十年を誇る
絶對責任の皆様の店
修理部を特設してございます
羽田カバン専門店
横須賀市大瀧町三笠銀座
TEL 一八一八番

全國有名出版社發行
參考書豊富に陳列
島森書店
鎌倉驛前

座談会　運動部を語る

部活動（スポーツ）は精神修養
要素に興味と學校の名譽

創立以来ここに六年、本校も第一期生を送り出す迄に成長し、運動部にも漸やく活溌な動きがみえて来たが、今日（二月十四日）は、各部の代表者と共に、本年度の回顧、或いは来年度の抱負などを中心に、約一時間半に亘って語り合った。

司会　運動部の活動の目的というものをどう考えますか。

[redacted]　一般に、スポーツは体位向上の為と云われるが、学校に籍する者はその学校の名誉を思って活動すべきだと思う。

[redacted]　運動部であるからには、そのスポーツによって身体をきたえる事は勿論だが、精神の修養をすることが大事ではないか。人格をたかめる事を考えてやっていれば学校の名誉をきずつける心配はないと思う。

[redacted]　僕は[redacted]君と[redacted]君の中間をいく。部活動を通じての精神身体の向上は勿論だが、僕の為には対外試合も必要で、部として外へ行った時、栄光と云う背景が浮び上って来る、その時栄光の名誉を忘れてはならない。

[redacted]　部に入るという事の動機はその人の興味だと思うのだが。

[redacted]　学校の部活動は上級生と下級生の間を親密にし、学校生活を愉快にするものだと思う。

[redacted]　名誉も大切だが運動部としては技術の向上も問題だ。

[redacted]　僕の云ったことが誤解されているのではないかと思うが、決して人格や体躯の向上が二次的なものだと云うのではない。

[redacted]　スポーツは精神的なものがなくては意味をなさない。[redacted]が云った様に興味も大切だ。その上学校のスポーツとしては教育的な意味を持っている。自分の将来の為に精神的な訓練をするわけでその所に重点を置くべきではないかな。

功罪相半のスポーツ大会

司会　去年のスポーツ大会についてどうお考えになりますか。

[redacted]　夏の大会の欠点は、クラス対抗の上、種目があまりにも多かった事で、同じ人が二つ以上の競技に参加する必要も起って競技が同時に行われた時には片方へしか出られず、人員不足による棄権や無理な場合には試合がとりやめになった。この点スポーツ大会の意味をよく考えて改善する必要がある。又あまりに急速に決定され実行までの時間が足りず、準備が不足したことも欠陥だった。

[redacted]　それからやる人があまりに勝敗にこだわりすぎていたのではないか。主催者たる[redacted]部も皆が楽しめるようにし、それを主眼とすべきだった。

[redacted]　ふだんは出来ない部員以外の者も楽しむことが出来るから大変いい、それによって部に対する理解も深まる。

[redacted]　そう、それまでは見向きもされなかった蹴球もあの大会以来ずい分ポピュラーになったね。

[redacted]　これは十二月の時だが、先生は殆ど顔を出さずに生徒に任せたので連絡等困る事が多かった。中枢機関の様なものが欲しい。

[redacted]　しかし、あの時期は先生方が一番忙しい時で、中々君達を援助出来ない。諸君の間で強力なものを作るべきじゃないかな。

[redacted]　本校では伝統もなくまだ仕事にまとまりがつかないのでうまく行かないのだろう。無駄な所で時間がかかっている。もっと上級生がしまりをつけて引っぱっていくべきだろう。

[redacted]　平素各部のキャプテンが、学校全体のスポーツについて相談し合ったり研究することが是非必要だ。

[redacted]　スポーツ大会に出るより休んで家に居た方がいいと云う考えを持つ人もかなり居たようだが、まず協力することが必要でないか。

対手に勝つ楽しさ

司会　活動中にはいろいろ楽しい事もつらい事もあるでしょうね。

[redacted]　試合をして勝つのは楽しいが、負けると云う事は気分的にあまり面白くないね。

[redacted]　夏の暑さの盛りの練習は楽じゃないね。

[redacted]　山岳部に試合はないが登山に成功するかどうかは他の部の勝敗と同じ事だ。一致団結して頂上に挑んでも征服出来ない事があるが、そのような場合に下山しても協力した事で又山へ来た嬉しさで一杯でつらい事は感じない。失敗しても残念だがつらくはない。ただ山へ来ただけで楽しい。

[redacted]　ベストを尽せば悔いはない。

[redacted]　試合の間はとてもつらいが、負けても悔しそうな顔こそしないが頑張った事で満足している。勝負にはこだわらない。

[redacted]　初めから勝つつもりでやった事はないからね（笑）

[redacted]　我々もつらい事はつらいとにかくゲーム的な面白さはなく他に依存する事ができないから自己のベストをつくすより道がない

[redacted]　かなり対抗試合をやったがいつでも自己のベストを尽したいと信じている。技術は劣るかもしれないが精神的にはすべてに堂々とやった。

短時間で数回練習に

司会　各部での練習時間について。

[redacted]　普通の日にもう少し遅くまで練習できるように。

[redacted]　時間制限は今まで通りでよいと思うが練習回数をふやした方がいいのではないか。一度に一杯やるより何回もみっちりやった方がよいだろうから。

久我　現状では人数も多くて学年をその日の練習にあてるよう計画すればよい。やはり長い時間の練習が必要だ。

木暮　東郷先生のおっしゃる通り練習回数をふやす方が勉強と両立させる点からもよいと思う。

不足の一語、各部豫算
—希望不満は山程ある—

[redacted]　蹴球は毎日球に触っている方が上達が早いように思うから時間は現行通りで回数をふやしたい。

司会　部活動に必要な予算についてはどうですか、意見が多いと思うのですが。

[redacted]、[redacted]　現在の予算では足りない。学校からは二万円もらうが、主に道具の為に使用する。バットを買ったりグローブをなおしたり、定期に年少くとも二回大会に参加する為の旅費も大きい。部費は五十円で二千円程度集まるがこんなわけだから大会には少くとも半分は予算から出してもらいたい。

[redacted]　予算だけではやって行けない。だから運動会にアイスクリームを売ったり、四十人の部員からは高校三十円、中学二十円の部費を取ってやっている。しかしボールだけでも高いのだから困る。

[redacted]　十円の部費も平素はあまり使わないのだが、使う時には一時にどっと出るので必要な時にまとまった金が頂きたい。

【出席者】

シュトルテ先生（山岳）
山本[redacted]玄先生（硬庭）
東郷[redacted]常先生（蹴球）
野球 [redacted]
バレー [redacted]
陸上 [redacted]
体操 [redacted]
軟庭球 [redacted]
硬庭球 [redacted]
山岳 [redacted]
蹴球 [redacted]
司会 新聞部 [redacted]
（連絡上卓球部欠席）

[redacted]　山岳部でも同じだ。テントやザイルを買うにはまとまった金が必要だし、今の五千円の予算ではザイル二本買うと消えてしまう。少したまると買いに行くのだが、それも冒険費はまかないきれず、無駄なところに費用が出ることになる。

[redacted]　硬式庭球は金がかゝる上にコートがコンクリートの為にボールが非常に早く消耗する。部費一人五十円と予算をまぜてもボール代で精一杯ですね。

[redacted]　予算として二万円位我々では必要だ。

[redacted]　蹴球も一度揃えれば後は少しずつ補充するだけですむから、一度まとまったお金を頂ければよい。

[redacted]　陸上競技部は発足以来日も浅く何も困っていないので何も云えないが（笑）やはり一度揃えておけばよいから一時に頂きたい。

[redacted]　うちではボール二十個位おけば金はいらないね。（笑）

非常に活溌な各部

司会　大分活動が盛んになって来ましたが部員の活動状態は。それから後輩の指導について。

[redacted]　中心は高二だが野球部が下火で新入部員も殆どない。野球を愛して積極的に入部して欲しいと思っている。それからコーチャーはいないのだが下級生の指導は自分達の力でやって行きたい。

[redacted]　籠非常によくやってくれる。

[redacted]　皆熱心にやりますよ。部員の指導はコーチャーがいないので僕がやっているが、コーチャーと高一の生徒諸君の入部が必要だ。

（シュトルテ先生御質問）

[redacted]　現在我々では中二と中一はいるのだがまだ体力が充分でな

先輩の指導を期待
更に積極性を持とう

いので基本練習だけやっている。

司会　部とその技術向上の為に望むものは。

[redacted]　二つのコートを軟式硬式夫々使っているが、先程も云ったようにコンクリートの為ボールの消耗が大きく土のコートを作って頂ければいゝのだが。

[redacted]　今大グラウンドは野球と蹴球が主に使っているが充分に練習している。どの部も満足に練習できるようにした方がいゝと思うから海岸寄りの土地の開拓をどうかと思っている。

[redacted]　体育館は非常に通風が悪いから今開かない窓があくようにしたらよい。授業で、どうしてもちりっぽくなるのでよく掃除をして頂きたいが。

[redacted]　二つ続きのコートを作って頂ければ有りがたい。

シュトルテ　そうしたら山岳部でも文句を云う。山を作って下さいよ。（大笑）

合宿や他校との合同練習もしたい

司会　来年度への抱負は

シュトルテ　予算についてどしどし意見を述べて下さいよ。来年からは生徒数も増しますから一つの部に対する校友会費は千円位いづつ増すでしょうが、現在一年に卅万円に満たぬ校友会費では、これを廿等分したので満足出来ないのは当然だ。校友会費を五十円に値上げしたらと思っているがそうすれば年に四八万円になるのでいくらかは助かるだろう。

[redacted]　頂けるにこしたことはないが、蹴球部では五十円に値上げする必要はないようだ。

[redacted]　五十円と云うシュトルテ先生の御意見は結構だ。現状では旅費や赤字の負担が部員にはかかる。学校の中の部は学校の名において活動するのだからその費用も学校として出して欲しい。

[redacted]　対校試合もやりたいのだが近い学校でも東京だから不可能に近い。それ故みっちり練習したいからコーチが欲しい。

[redacted]　我々は、一合宿して座錬習したいと思っている。

[redacted]、僕達でも合宿は未決定だが春や夏の休みにでも集って練習したい。

[redacted]　合宿についてはうちでもいろいろ考えたがやはりどこか無理が生じてきますよ。

[redacted]　我々の合宿は長期登山だが、どうせ行くなら大きな山へと思っている。

[redacted]　昨年は部員が多過ぎて困ったが今年は制限する。横高や関東学院と合同練習をやって行きたいと思いますね。

[redacted]　僕のところは教える人が僕以外にないので部員もまじめにならない。コーチと高校生部員獲得に力を入れる。また試合へも出たい。

司会　では最後に先生方にお話をうかゞいたいと思います。

[redacted]　部には好きで入っているのだろうがまだ熱がない人がいる。又、上に立って引張って行く人は自分の欲を抑えて部員に少しでも多く練習をさせてやる。そう云う犠牲心が必要だ。好きで入部した者で練習と聞くといやな顔をして逃げる人もいる。まあ個人の問題だがもっと積極的な態度が欲しい。

[redacted]　部活動は学校での授業と同様の価値を有する。練習の時友達との私的な約束で帰る人もいるようだが、練習がある事は前々から決っている事だし、この様な約束を断って部に出るくらいの意気が大切だ。又運動にチームワークは不可欠なものだ。競技に云えば一人でも欠席すると真の練習は不可能だと云えるだろう。責任感をもって活動すべきだ。予算を沢山受けるにはやはり自分達で積極的に不合理や無駄な消耗をなくするよう努める事が大切だと思う。

シュトルテ　そう、外面的には積極性がないように見えるかもしれないが、実際はそれよりも部の運営の仕方に慣れていないのだと思う。経験が少いのでやろうと思ってもやれない。これが大きな問題ですよ。部の指導の仕方についてよく研究する必要がある。先程ちょっと聞いたが他校と試合する事は他の学校の部の運営法がわかる為、非常に有益だ。与えられたものに満足して部としてのベストを尽してやって行くようにお互にいろいろ相談して下さいよ。積極性はむしろ大したものでしたよ。蹴球部を見て下さい。今ではあんなに盛んになっている。又、君達は卒業生のありがたさをよく知らないから大した期待を持たないかも知れないが、他の学校でも、部活動が盛んなのは実に卒業生の陰の力があるからですよ。熱心な卒業生がいると部はずい分助かる。上級生を有がたく思って名簿の上にもいつまでも残し、コーチを卒業後も続けてくれるようお願いするとずい分為になりますよ。

司会　では、皆さんおいそがしいところ有がとう存じました。

菊地先生御帰国

菊地裕三先生が突然帰国された。先生は一昨年夏セントルイス大学院へ御留学の為渡米されたが、当地で御病身になられ、二月二十五日横浜に着き、その後御静養中のところ二十八日一年半ぶりに懐しい本校に見えた。新学期から再び本校で英語の教鞭をとられるが、七日の卒業式には正式に出席される模様。

本年度中学入試終る
ほぼ決ったか受験者層

本校二十七年度の中学入試は、予想を下まわって、十四日三二八名で応募を締切り、二月十六日の筆記試験を皮切りに、面接試問など五日間に亘って行われた。今回の応募傾向をみると、大体の受験者層が決定された観があり、噂をよぶ噂から、一部受験生間では、受験をひかえて非常に非観的な予想をもったという。

○……午前八時受験生集合の鐘と共に、フオス校長、シュ副校主任の型どおりの訓話を受けていよいよ試験場に入場。当日は、午前中、国語、数学、理科、英に午後には社会と身体検査があったが、一般的に問題は高程度で、かなり難解なものが多く、弱小学生の盲点をつく傾向が往々にしてみられた。

○……さすがに幸福する個人面接には時間を要し、一七日から四日間がこれにあてられ、道徳的に試される受験者の顔には意外のいろもうかゞわれた。

○……発表は二四日の九時、場所も昨年と同様講堂でおこなわれたが、本年度は特に不合格者へ直接通知があったため、悲喜こもごものシーンは展開されなかった。たゞ不安気な顔を、ニコニコ顔に早変りさせて事務所に急ぐ人々の顔が印象的だった。

生徒の声

○各教室に雑巾棒を

いつも思うのだが、大体、靴であがる所を雑布で、然も手でふくと云う事がどだい不都合ではなかろうか。当番がいやだと云う訳ではないが、冬の寒い日にやれと云われると非常につらい。如上の理由により、私は各教室に雑布棒を備え附ける必要を主張し、且つ学校にこれを要請したい。（高二生）

○特別貸出はする（教図室）

〃教員図書室を開放せよ〃の声について、その見通しについて顧問先生は次のように話された。

生徒は無闇に開放しろと云って困るが、教員図書室には生徒の読める様な本はそうあるわけではなく、教員図書室にある本で生徒に読ませたい本は生徒の方にも入れるようにして居る。

特に生徒が読みたい本を指定して頼むならば、特別に貸出すようにするつもりである。

神奈川縣指定
銘菓　さゞなみ最中
横須賀市若松町中央驛前
坂倉本店
電話六五四・八七五

店内擴張記念
新學期學用品大賣出し中
松林書店
逗子本通り
電話 逗子 二六八番

御宅の電器具からラジオ
部品に至るまで一式揃います！
三吉電氣商会
横須賀市大瀧町2ノ11
電話 250(ヨコスカ)

クスリ
實驗器具
塗料
中村薬局
横須賀市若松町1の11
電話 601(ヨコスカ)

高一B　君輝く四連覇

更に記録を短縮

第五回強歩会終る

第五回強歩会は、二月四日の午前八時、中学三年生の久里浜出発を皮切りに、最高四時間十分、四時間三八分の所要時間をもって、高校生は、馬堀海岸—逗子（三八粁）中学生は、久里浜—逗子（三三粁）を走破した高一A、中二Dの優勝をもって幕をとじた。この日、　君（高一B）の、輝く四回連続優勝を始め、中学では、　君（二A）の連続二連勝など、曇天にもめげず、たいへんな健闘をみせた。

今回は、高三は不参加のうちに従来の会規則が一部改正され、走ることのほか、関所に於て行なわれる捺印をはじめ、無謀用な者に辛いにも頭を冒くことの規則がはずされた。このため、全般的に所要時間が短縮された。

中二の奮闘もさることながら、初参加の中一生が予想外に元気なところをみせ、中学十二組中、総合十位迄に入り、最高四時間二五分をあげ高校では、高二生がすべて総合五時間台で、四時間台を維持する高一生に一方的におさえられた。

総合優勝

中学の部　**二年D組**
所要時間　四時間一〇分

高校の部　**一年A組**
所要時間　四時間三八分

以下（中）二位三D、三位二A
（高）二位一B、三位一C

個人、団体優勝

（中）一年、所要三時間二五分
　、田辺
二年、所要三時間三三分
三年、所要三時間一〇分
以下、二位（中一）　、三・二三
三・二九（中二）
（中三）　、三・二三（数字は時間・分）
（高）一年、所要三時間五二分
二年、所要四時間〇〇分
以下、二位（高一）
四・〇一（高二）
四・〇七

以上褒賞として、優勝者には賞状が授与された。

校長談「この強歩会にはただ一生けんけんめいにやろうとする精神が大切であり、その意味に於て諸君は良くやってくれた。感謝にたえぬ。」

写眞高一優勝の（左から）　君

強歩会 接待お禮

去る二月四日の強歩会の際には地区栄光会の方々が、私達の強歩会の成功に御協力下さいまして有難う御座居ました。私達は終始、より一層楽しく歩き通すことが出来ました。

途中の関所、終着点では温いおでん、砂糖湯、お茶などを準備して下さいまして、私達の労をねぎらって下さいましたことに対しては感謝に堪えません。私達はこの温い御助力によって幾分かでもその疲れを忘れることが出来、楽しい思い出として強歩会をおえることが出来ました。

紙上をもって厚く御礼を申上げます。

地区栄光会の皆様へ　生徒一同

栄光精神に生きよう

高三

我が栄光学園第一回の卒業の日がいよいよやって来た。我が学園は六年前まだ何ら形のないものであったが、今年度には、生徒の個人的態度、各学年の性格、更に大きく学園の校風など、それぞれ栄光の名のもとに、一つの定まったものになり、いわば、かたちある学校となったのである。世間はこれに特異な眼を注ぎ、何か大きな期待と興味を抱いている様である。かかる注目の中にあって、今後我が栄光学園が、誠実にそのあるべき真の姿を示してゆき得るか否かは、全く我々生徒の態度如何にかかっているのである。それだけに我々の責任は重く、本学園卒業の意義は深い。しからば、母校に対して、又自分に、友人、後輩に対して我々は如何にあるべきであろうか。

我が学園の最高の目的が〃人格形成〃にあるならば、そこに学ぶ我々栄光生は、栄光精神を以ってこの一つの高い理想に向って、六年間、のみならず卒業後も一生の間頑張り続ける強い意志の持主であるべきなのである。そうあってこそ、我等が母校はその名にふさわしく栄え、多くの後輩をその光のもとに招き高く堅固な伝統をつくり上げることが出きるのである。

私は栄光精神という言葉を使った。しかし、実は、必ずしもかく呼ぶ必要はない。栄光生は個々の精神によって、その何たるかを知っているであろう。ここに云う栄光精神とは、その名こそ特殊であれ、その実体は決して特殊でも何でもない、むしろ最も平凡なものといえよう。それはいつの時代にも、いかなる国に於ても偉大なる人間の心の中には必ず宿っている精神であって、人間を天使の如く、高尚なものに高めてくれるのである。我々はこの栄光精神に対して充分な自信と誇りを持つべきである。我々の母校に対する尊敬とそこに育つ栄光生としての誇りは共にこの精神に対する尊敬であり誇りなのである。これを自覚して自からその実行者たらんと努力せぬ者は、高等学校卒業生といえども、栄光学園の卒業生としての資格は毛頭持たぬものであると云えよう、してのみならずかかる人間は人格者になる能すと言っても過言ではあるまい。

在校中の六年間、この精神を自己の精神的第一原理とせんがために、全力をつくしてこそ、本当の意味に於て、本学園卒業の喜びをかち得ることが出来るのである。その喜びは芸術家の作品を完成した時の喜びに等しく、又登山家の山頂を征服した時の喜びにも等しい喜びなのである。この喜びを生み出したのは、時には苦しみ悩みであった過去の努力—自分の全力をかけての努力でなくてなんであろう。生み出したのも自分にほかならないのである。

ここに於て尊いのは、あの過去の、自分との戦に於ける真剣さ、まじめさで我々はとのまじめさで栄光精神に生きて行くべきである。在校中も、そして卒業後も。

さて、さきに、栄光精神に対して自信を持てといったが、およそ自己の選んだ正道に対して自信を持ち、且つそれに忠実、慎重であり得る人間は、真に尊敬すべき人間であると云えよう。ここで私はカトリック信者のことを思い出すのである。カトリック信者は本学園にも相当いる。私はこの信者こそ右に述べた事柄を、充分理解し実行すべきだと強調したいのである。カトリックが栄光精神の根本なら、信者は栄光精神の根本を宗教としてとり入れたものといえよう。かかる若いカトリック信者の学生として、我々は一つの重大な使命があると思う。それは、云うまでもなく、自己の信仰に対して自信をもち、自分が、日本のカトリック信者なることを自覚することである。—あたりまえのような事ではあるが、どうして、学園内だけを眺めても、心から反省させられずにはいられない。かく云うと、ちと大げさかも知れないか、信者個人が自己の信仰に対して自信をもち、それに忠実なることは即ち最大の布教であり、又自分というものに対して、一人の人間として当然とるべき態度なのである。信者、未信者を問わず、我々栄光生は、自己の選んだ正道に対しては自信をもち、且つそれに忠実、慎重であろうではないか。

ドイツの学生歌に、こう歌われている。（歌詞はラテン語）

Alma Mater floreat,
Quae nos educavit,
Caros et commilitones,
Dissitas in regiones,
Sparsos, congregavit

母校よ汝に栄あれ
汝は我等を育て
最愛の同窓が
遠く彼方此方に別れ行くを
汝は一つに集めてくれるのだ。

卒業は別れではないのだ。我々は互に兄弟の如く母校の精神に生き、若き日を正しく、且つ楽しく過そう。

バトミ部長に内田先生

新しく三部発足

音楽鑑賞部

去年十一月発足した音楽鑑賞部は部長に酒井先生をおし高二高一　両君が中心となって活動しているが、未だ学校から予算をもらっておらず、正式の役員も決っていない。活動は部名の如く音楽を鑑賞することで、今のところは安上りなレコードコンサートを土曜の午後、月二回は歴史的に、月一回は演奏家別にやっているほか月に一回は公開している。

バドミントン部

バドミントン部は今学期高一の〔ちょっとかわった連中（某先生の言）が中心となって発足部長に内田先生を頂き、顧問宮北先生主将高一　君、現在部員は高1十二名、中3六名 計十八名。将来は高等学生だけの部となる筈でコートは今のところ体育館を使っており、練習以外に時々講習会を開いてルールを学ぶ予定。ところで部長内田先生は「コートは現在一つなので将来は三つ位にふやし、部員も多くして良く練習し、他校と試合が出来るようにしたい。」と熱心なところを見せておられるが先生がバドミントンをされるところは仲々発見できないようだ。

陸上競技

去年の暮高二の生徒が中心となって生まれた陸上競技部は現在高2十名中学五名計十五名の部員を擁して長短距離のトラックと跳躍投擲のフィールドをぼつぼつ始めているが、部長主将共に未決定で只代表として高二　君があたっている。しかし学校から予算をもらったら部長も用具もそろえてみせると意気込んでいる。高一部員が一名もいないので御協力願いますと部からのお願い。

27年度 各部会計中間報告

二七年度部活動会計並びに二八年度予算に関する各部の中間報告を要約して次に示す

（研究部）

◎物理部 二七年度一万五千円と六一名からの部費—月三十円—で賄った。主な出費は工作道具に約九千円。来年度も現行通りでよい。

◎生物部 収入総額二万余円。この中五割近くは一学期に使用し、現在残高八六円。収入内訳は、二九名からの月二十円の部費と、校友会費より一万六千五百円也。来年度予算三万円。校友会費からは二万五千円を希望している。

◎化學部 二七年度予算不足。不足分は運動会、創立記念日等の売店売上げと一四名からの月三十円の部費を以ってしても補充し得ず。二八年度二万九千円を希望。

◎寫眞部 校友会費一万五千円と三二名から月三十円の部費をとっており全収入二万六千余円。支出は二万六千円弱で暗室整備。現行予算では満足に活動出来ぬ。

◎演劇部 学校からの一万三千円と部費・特別収入合わせて収入総額一万八千円弱。支出は一万六千余円。これから見て来年度は学校から少くとも一万五千円は欲しい。

◎書道部 現行予算四千円で不足はない。来年度予算は部員増減甚だしくない限り現在と同じでよい。

◎編集部 予算は五千円だったが大した出費もなく広告料が入ったりした為全然不足はない。

◎新聞部 部費は集めず学校からの五千円でやっている。紙面充実、研究費等改善の余地非常に多し。

◎音樂鑑賞部 新発足。レコード（LP・SP）購入に一万八千余円要しその他の研究費を合わせて二万円を希望する。

（運動部）

◎野球部 校友会費より一万五千円と一人当り月五十円の部費が全収入。出費内容では道具費が七〇％を占めている。交通費、身廻り品費、道具の充実等のことを考えると最低二万円は必要。

◎硬式庭球部 現状は校友会費より月一千円、部費月一千七百五十円が収入金額で支出は月に二千五百円。これは最小限度。支出の九割以上はボールに当てられるので一年たってもラケット一つ買えぬ。練習充実の為年に五万円の費用を要し部員三五名から一人当り月五十円の部費をとり学校からは二万九千円欲しい。

◎軟式庭球部 現在手許にある金は百六十円。ネットやラケット購入等三万一千円必要。五十人から月に二十円の部費をとり、学校には一万九千円を希望する。

◎卓球部 予算一万二千円とラケット代三千円を学校から受領。部費をとらぬ故収入総額一万五千円。支出の主なものはボールとラケット代。もし可能なら正規の卓球台が欲しいが、その他で不足なし。二八年度も現行通り一万二千円を。

◎山岳部 予算五千円に創立記念日売店売上げ一万四千円位と六二名からの月二十円の部費その他を合わせて四万三千円弱が総収入。主な支出はテント二張に三万円弱。来年度部員の増加及び登山本格化に伴いより多くの予算を要する。

◎排球部 徴収金額一万四千余円。支出金額二万二千五百余円。革ボール購入とユニフォームに八割以上使った。不足の補充には運動会売店売上げや部費（高校三十円、中学二十円）を当てている。ボールの価格より算出して最低一万五千円を学校に希望する。

◎蹴球部 学校より一万六千円。牛乳売上利潤、部費は四千八百円弱。支出総額一万七千余円。ボール、ストッキング、ネットに九割近く費した。二八年度予算は、二万円。

◎バトミントン部 新発足。現在十八名。部費四月より三十円。羽根代に一万余円要することから、部予算として学校に一万二千乃至二千円を希望する。

◎陸上競技部 新発足。部員からの部費は年間五千四百円。これとは別に一万三千余円を学校に希望する。主な内容はスターティングブロック、ストップウオッチ等。

—◇—

予算不足分の補充や部活動の維持発展の為にとった各部のまじめな態度は大いに注目に値する。予算充実の為に校友会費値上げや学校からの寄附と云うものが考えられるが、前者は学校側により否定され後者とても予備費等への可能性が弱く、結局各部予算年額は平均一万八千円前後に落ち着くものと思われる。予算の不足分は部費の徴収を以って補うより外に途がないのではないか。予算決定に際し基準となる点は人数、器材消耗度、活動状態等だが特に部員数が重視される模様だ。尚これらの事に関しては試験終了後行われる幹事会の席上明らかにされる筈。

シュトルテ先生談「各部が事情を忘れずまじめに予算案をねっている事と予算にかけひきや贅沢な考えが一つもないのに大変感心する。又予算、活動、行事等に関して各部が話し合えるような組織を作っては如何。他校の生徒会と異り、部長たる先生と部員が一緒に話し合えるような組織を希望する。」

心の表現

N・チェルマーク

六年間期待して居た日はやっと来ました。一期生卒業は大したものです。残念乍ら見る事の出来ない出来事になりましたが、身だけで遠くて心は君達と一緒です。君達の青年姿は目の前に浮んで居ります。初めて合う時機は五年前鵜原キャンプの夕方、余興、砂浜。当時は日本語は殆んど何も分らなかったので目だけで見ても「栄光の健児は実に立派な精神があるな」とばかり考え込んだ。ある意味に於て其の時から日本人に心を奪われたと言ってもいいと思います。お世辞ではない。むずかしい日本語を学んで時々絶望のどん底にいるような気持ちが起った時間には本館の窓から君達を眺めていたら再び勉強する決心をたてた。「愛があれば苦労はない。いな苦労があったら其の苦労さえ愛される。」と言う聖アウグスティヌスの言葉の含蓄は経験しました。其の愛を起したのは君達です心から感謝致します。

今度は日本語学校で卒業してから栄光での先生をする時期が来ました。あんたに慣されだ君達に対して仁王様（あるいは閻魔様ですか）の様な顔をしたのはばかばかしいと見えませんでしょうか。それは僕の一番むずかしい試験でしたよ。今君達は大きく成って来た時に此の告白をしても多分お解りでしょう。教育の為に先生と言う困った者は時にこわい顔をしなければ少年達は「お坊っちゃん」になって仕舞う。可愛相に。

日本を去って米国へ来ました。君達を具体的に思い出せる様に遠藤君から貰った詩吟（[illegible]）を歌って（外れた調子ですが）みますし、其の小さな紙も何時までも本に挿んでいます。此の詩吟（と剣舞）を初めて見た聞いた時は一期生の最初の鵜原キャンプの夜でした。その懐しい雰囲気は何とも言えない。

今君達のことを考えるとただ一つの望みが御座います。栄光で分った精神を大学時代に失うどころか新しい友達の心にもうつるようにして下さい。そして（誤った哲学の考え方がどんなに流行っても）真理は一つだけだからそれを見附けるまで死ぬまで求めて下さい。そうすれば栄光の一期生の君達は栄光のだけではなく日本の光栄になるのは確かな事です。では大学の道を無事に終点まで走るように。いざさらば。

（お世辞又はお説教のような話でしたが心から—実に其の奥底から—湧き出たもので勘忍して下さい。）

栄光の一期生個人個人へ
一九五三年三月
ヴェスト・バーデンに於て
チェルマーク（仁王様）

短信

▽山岳部では昨年暮から機関雑誌〃いろり〃を企画、編集中であったがその第一号がこの程出来上った。発行部数一〇〇で頁数三十六、謄写版刷りで一部三十円。内容は随想、登山記録、詩といった様なもので、そのほとんどが登山報告であるが部外者が見てもかなりおもしろい。学園内の部で機関誌を出したのはこれがはじめてで、これによって今迄、「食い部」として有名だった山岳部は〃いろり〃の発行により、その汚名を半減？したわけ。

▽山岳部では去る一月十七日高三部員の卒業と前途を祝し、今迄の部の為の努力を感謝すると共に卒業してからこそリーダーとし活躍してもらいたいという意のもとにオッパライ式を行った。始めに十の掟をとなえ、天狗の挨拶、次いで出席の六名の卒業部員が踊歌等を弁じた後余興に入り歌い且つ食らって楽しく過した。

▽現在の高校々舎には、二組収容出来る合併教室が無く、中学校舎のものを利用していたが、今度普通教室一つと共に、講堂二階に作ることになった。教室の工事と共に、高校々舎二階の廊下を延長して講堂二階との間に橋をかける計画もあり工事は春休みのうちに始められる模様。

68隻で獨立日本の海防
眞劍な人々の生活
備警隊見学記

保安隊は軍隊だ、警備隊は海軍だとか、はては保安隊と警備隊を混同しているものも多いと、時とりどりのうちに、その一かくを日々、目の辺りにし、やがて旧軍人のメッカともなろうとかいう声を、再次軍隊に移行かの声をきけば、何はともあれ一応は、というわけで、船内、公会見学かたがた、本校正面にあたる警備隊横須賀総監部を訪れてみた。（永井、田辺、桑名記者）

うすくろずんだ貧弱な正門をくぐると、七ツの海を象徴する七本の背柱に、赤くサクラの花を浮き出した隊旗をかかげたポールを正面に、塗りかえられた二階建の明るい建物と緑色に塗られた建物が一万余坪の地形にかこむ運動場には冬の陽ざしを斜めに受けて、野球がはじまっている。所定の課業がおわると、練習生達は親和会といわれる自治会中に組織された、各運動クラブに所属したものどうしスポーツを楽しむ。

ランチに乗って海上に出るとさすがに冬の潮風は身にしみる。船は大きく迂回して、PF船に横ズケになる。これが噂の船かと迎えば、思いなしかスーツと背すじをはしるものを感ずる。

何が軍備か、独立日本を何で守るか、ということを決するのが現在の日本に負わされた大きな課題であるが、旧海軍の艦船のかけらも無いという日本の現状では、米国から貸与されるこのフリゲートが唯一の守りであるわけだ。

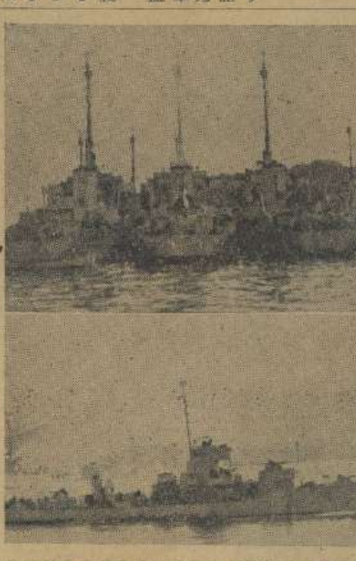
いわゆるフリゲート船（略してPF）とは全長約一〇〇米、巾約一〇米、時速一五―一六ノット航続能力一万哩をもつ、一五〇〇噸級の海防艦型のもので、後部は第二次大戦で有名になったヘッジ・ホッグ、つまり爆雷投射器が三基あるというのが一寸変っている。

清楚な船内の空氣

LS船に（上陸支援艇）移ると、更に狭くなった船内は、二米四方として空いているところもない程器具でゴタついている。吃水線下五フィート、錨が船尾にあって総鉄製の甲板を有しながらも、総トン数わずかに二五七噸、満載時でも三九五噸というから、攻撃側活動的な船だ。再軍備ではないというものの、ヘッジ・ホッグや、この船ご自慢のロケット砲（二基）をみれば、一寸無気味になるのが本音のようだ。

そして乗組員の数はPF船一四八名、LSSL船七十名とあり、内訳は、船長以下士官が各九名、五名と課員多数となっており、司令船となった時は、司令共に五名程度増すという。

これら乗組員の生活は六時の起床から二十二時の消燈迄、午前、午後を通して数回の休憩、そして課業、と独立日本の海防に努力する人々の生活は真剣だ。日中は船尾にはためく真新らしい日章旗、マストにひるがえる種々の旗は日没と同時に降され、マストには赤くランプがともり、駆け足で夜がやってくる。このところ迄には食事をおえた自由員達が、消燈前の外出に出る。船内の清潔なことは、むしむしとあつい室内でも少しも気分をわるくしない程で、ただ狭いというのが乗組員に対する同情といえるだろうか。



写眞は――（上）停泊中のフリゲート船――
――（下）は航行中のＬＳＳＬ船――

移転は元鎮守府方面に

問題の船を目の前においてまず気がかりなのは機構拡充に伴う諸問題だが、総監部の将来計画の方向は、専ら元鎮守府、現在の米軍基地方面に向けられており、総監部が現在おかれている長浦湾は、横須賀市側で、漁港としての発展を企画しているだけに警備隊としてはこれを保護するたてまえから長浦から主力を移行するようだ。今迄のところ予定地としては横須賀[illegible]通りの田浦寄り背山地帯にある新生婦人会の敷地に決っているといわれ、今月頃の先方移転と並行し、四月以降迄には移転方をみる予定らしく、この傾向から推して、長浦湾にかゝってくる比重はぐっと小さくなるので事実上問題はなくなるものとみられる。

舊基地に総監部開設
いいい連合船隊も組織かいい

このような警備隊も、すでに艦艇総監部の発足をみ、やがては、呉、佐世保（伊万里か?）大湊等旧海軍の根拠地にも開設される事になり、五六月迄には、既に受渡しを終って配船されるという。現在まだ実行されていないが、当局の計画では、ゆくゆくLS・PF船の各種編成ならびに、MS（旧海保の掃海艇）船による連合船隊がつくられて日本沿岸各地を防衛することになるといわれる。

この船隊の構成は、PF4隻、LS6隻が各々合成されて次段階の一船隊許に進む。かくてこれが六十八隻よりなるとみられる連合船隊となるのだ。何はともあれ現存なお李ライン等の複雑な問題を目前に不明瞭な性格にもだえる警備隊の前途は多難である。

フリゲートは公船だ

一方警備隊が再軍備そのものであるか否かについて、石川さんは、現在の状態で、あれが再軍備であるとはまず言われぬでしょう。我々はじめ、現在とゝに勤務するひとびとは、生活の手段として自由に入り、自由に自分の希望を基にして止めることも出来るし、国家公務員として国民に奉仕している。ことに我々の持つ船舶の海上に於ける権能に関しても公船としてこれにあたり、軍艦の持つ各種の特権は一つも、もってはおらない。我々の船の行動出来る限界は、たゞ正当防衛という線までゞあって複雑な国家間の両面に関与することは出来ぬわけだ。

そして更に、歴史からみた警備の現代世界に於ける必要性と、厳正中立、すなわち無軍備による中立国家存続の不可能なことを、確率的に語っておられる。

つまるところ、警備隊が軍隊でないことは一応とも事実である。

しかしながら、やれ安保条約の、行政協定の、といっても、やはり米国とても自分のことはたたあげにはしまいし、米国政府の内部の動きをみても、既かに保安庁を中核とする日本再軍備発展への移行傾向が感ぜられる。

だが、とゝに我々は今後の日本を背負うものとして冷静に成行きを判断し、いずれの方向に進むにせよ絶対的正義を旨としてこれにあたることを忘れてはなるまい…（N記）

倦む事なき理想の追求を
「巣立ち行く者に」　J・エイレンボス

一九四七年八月一日の金曜日、私は、小出神父様、山本さん、吉川先生と一緒に、栄光に来ました。私達は、富用トラックに乗って、上智大学からやって来たのです。

学校の入口の、狭い道に折れた時に小出神父様が言いました。「サァ、栄光に入りました。でも、あそこまでは未だ仲々です」

あそことは、本館のことなのでした、海岸沿いの道は、とても悪い道でした。諸君には、この道がどんなにひどいものだったか、恐らく想像もつかないでしょう―何十回となく、ぬかるみの中を往き帰りした一期生達を除いては―。

本館で、私は一人の神父様に今の私の部屋迄案内して貰いました。（尤も、当時は、現在よりもいくらか広い部屋でしたが―。）山本さんと、吉川先生は、私の部屋にやって来て、荷物の整理を手伝って呉れました。この御二方は、この部屋の、最初のお客様となった訳です。

時は八月、休暇の最中なので、生徒達は一人も来て居ませんでした。九月の初旬になって始めて、私は我が未来の生徒を十人程見かけたのです。未だ授業は始まっていませんでしたが、その子供達は、英語の補習に来て居たのです。

当時、先生方は校長先生以下、小田・キンジョ・殿村・県田・藤本の僅か六先生で、その内小田、キンジョの両先生が辞められる事になったので私とシュトルテ先生とが代わりにやって来たのです。

九月の中頃、学校が始まりました。始業式の日には、A・B、僅か二組の生徒が皆、講堂がわりに使っていた広場に集まりました。聖堂の横の広場に、三百人はおろか、百人にも満たない、たった七十八人の全栄光生が集ったのです。

四列に並んでいた生徒達は、壇に登られた校長先生に、一斉に御辞儀をし、校長先生は答礼して、訓話を始められました。その間に、私は、今日から私の生徒になる、この小さな子供達を順々に眺め渡していました。

その生徒達の中には、特に私の注意を引き付けた者が四人程居りました。その内二人は、以前私が上智大学で教えた事のある学生の弟達でしたし、もう一人は、足が長くて、他の生徒よりずば抜けて背が高かったので目に留ったのです。最後の一人は、最前列に居た背い順の子で、訓話の途中、コンクリートの床に卒倒して了ったのです。

他の子供達の顔も、授業をしている内に追々覚えられて来ました。私の教えたのは、英語の発音と音韻文字―それから英語の歌でした。私達は授業中、声を張り上げて色々な歌を歌ったものです。恐らく、余り威勢よく歌い過ぎたからでしょう―隣の教室の先生方の苦情もよく聞かされました。残念ながら私が一期生を教える事の出来たのは、たゞの六ケ月に過ぎませんでした。私は、一期生を二年迄持って上りたかったのですが、残念な事に、私の思い通りにはなりませんでした。一九四八年の四月には、私はもう一度、中学一年生を教える事になって了ったのです。

それ以来、私はずっとこの“boys”を教えて居りません。高等学校で、選択教科を教えた外には―併しながら、この生徒達は、やはり私の思い出の栄光第一期生です。そして、第一期生として、私の思い出のアルバムに何時迄も残る事でしょう。

一期生達が居なくなって了う事を考えると、私は実際寂しくなります。併し、人生とは結局こう云うものなのです。君達がこの学校に入ったのは、決してそこに止っている為ではなく、より高い目標への足がかりを見附ける為だったのですから……

卒業生の諸君、君達は入学した時は未だホンの子供でした。でも、今ではもう立派な青年になって居ます。倦む事なく理想を追求し続けなさい。そして賢い学生、善い市民、尊い人におなりなさい。

神の恩寵が君達の上に豊かならん事を祈って、この筆をおきます。

同窓会近く發足
初代会長に野村君

いよいよ第一期生の門出にあたって同窓会の構想が練られている。会の名称は、現在未だ最終的な決定をみないが、三月七日の卒業式当日の発会式をひかえて、すでに初代会長、[redacted]君以下各幹部が内定した。会は一年に一回総会を開き、特別会員として先生方を推し、中退した諸君を補助会員としてこれに招くという。幹部の任期は二ケ年で二年目の総会で選出し、毎年卒業する同窓生の入会費は五〇円、将来方法として会からパンフレットを発行する。

（機構）
副会長 [redacted] 君
庶務 [redacted] 君
会計 [redacted] 君君君

卒業記念は時計か

同窓会側世話委員会では、かねてから、卒業記念品について各方面と折衝を続けていたが、さきに生徒側から提出された、各人支出二百円総額一万円の案をもとに、七日の父兄懇親会にはかったすえ、各人支出三百円総額一万五千円に増額することを内定し更に品物については委員側協議の結果、記念額ならびに教室備え付け掛時計に決定、これを二父兄に委任することゝした。

ところで、懸案の卒業記念アルバムについては係の手で計画がすすめられているが、価格の点で折合がつかず、決定迄には更に時日を要する模様。

スポーツの記録

▽サッカー
一月二十四日　於建長寺
鎌倉学園2（1―0、1―0）0栄光学園

▽軟式テニス
一月二十四日（土）　於本校
栄光　3―1　関東学院

二先輩を送る

学園第一期卒業にあたり、本部では、[redacted]、[redacted]両[illegible]を送り出すことになった。

[redacted]君

[redacted]君

栄光ニュースフラッシュは二十四年一月創刊以来、学校と家庭の連絡という目的にそいつつ、学校新聞として急速に発展して来たが、両兄は、その創刊期より、一昨年夏第一線を退かれるまで常に部の中心として活躍され、ニュースフラッシュの基礎を確立された。かくて、四年前何号迄続くか予想だにされなかったニュースフラッシュは、既に四十号に垂せんとしている。

我々一同紙上を通じてここに深く感謝の意を表すると共に創刊期に記者として本紙のために働かれた、[redacted]、[redacted]の諸兄にも御卒業を心からお慶び申しあげ、更に今後の御精援をお願いする次第であります。

昭和二十八年三月
栄光学園新聞部

新聞部

金物と荒物一式
優秀石油コンロ
有限会社 伏見金物店
横須賀市船越仲見世
電話田浦一九八番

新刊書籍、雑誌、参考書
日本圖書館協会選定店
有限会社 信濃屋書店
若松町三ノ十二

書籍・文房具
廉価勉強の店
湘南線田浦駅前通り
螢光堂

紙 紙 紙……
和用紙一切の御用は
川嶋紙店
横須賀市若松町
電話三六三番

靴・鞄・製造修理販賣
有限会社
ゴム靴類
運動靴類
半バス 本バス 特賣致します
井上靴店
電四八六

キレイナ印刷
八・八新活字
PTA新聞
横須賀市船越町一ノ四七
民友社印刷所
電話田浦三五番